未来に残したい唐津の風景 ②

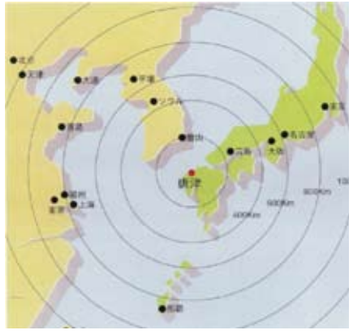
かつて朝鮮半島や大陸と船でつながっていた唐津港。
天平時代の物語が残る神集島（かしわじま）や高島。
発電所の鉄塔を背に新たな松原がひろがる。
海上からしか近づけない七つの洞穴、七ツ釜。

写真提供／佐賀県観光連盟

唐津港を再び「唐への津」へ

田元碧樹

Teens KARATSU♣B班



唐津と韓国の位置図

唐津と韓国の交流史

唐津はとても韓国の近くにあります。唐津から韓国の釜山まで約２５０キロあり、これは唐津から東京までの距離の約４分の１にあたります。

唐津と韓国は古代の昔から交流があり、特に長江下流域から朝鮮半島を経由して、唐津へ伝えられた稲作は有名です。当時、中国や韓国は「唐」と呼ばれており、「津」は港という意味で、すなわち「唐津」とは「唐への津」、つまり「中国や韓国へ渡る港」という意味でつけられたそうです。

そんな大昔からの交流があり、とても近い韓国に住んでいる人びとは唐津をどのような場所だと感じているのでしょうか。唐津市役所に勤めている韓国出身の鄭倫昌（ジョンユンチャン）さんに話を聞きました。その中で驚いたことは、「韓国の人びとはあまり唐津のことを知らない」ということです。「こんなに近いのになんで…」と思いましたが、そういえば自分もほとんど韓国のことについて知りません。せっかく近くにあるのだから、お互いをもっとＰＲしあっていけば、唐津にも韓国にも観光客が増えるのではないかと考えました。

上空から見た唐津港。正面大島の左手がフェリー乗り場

佐賀県ヨットハーバーから見た西の浜

唐津と周辺の島々を結ぶ海上タクシー

唐津港を発着する壱岐との定期便

港を唐津の新しい玄関口に

再び唐津と韓国の交流を盛んにするため、直接船で結んだら、唐津にも韓国にもどんどん観光客が来るのではないかと考えました。唐津市みなとまちづくり室の金子和寿さんに、「唐津港から、韓国など海外の港を直接結びつけることが可能か」という質問をすると「手続きなどはいるが、不可能ではない」ということでした。そうすれば、今はあまりにぎわっていない唐津港にも人が増え、唐津の活性化にもつながります。

しかし、ただ唐津と韓国を結べばよいということではありません。その前にしておかなければならないことがあります。

まず、前にも述べたように、もっと唐津を韓国にＰＲしていかなければなりません。例えば、山や海などの大自然、唐津城や名護屋城跡などの歴史的・文化的な建物など、唐津のよいところ、すごいところを韓国にＰＲしていくのです。また、唐津港やまちなか、観光地にある看板や案内板に英語や韓国語を書き足し、韓国の人びとが来ても迷うことなく、楽しく観光できるようにしなければなりません。

海上タクシーを有効活用

現在は一部で使っている海上タクシーも、もっといろいろな地域と結んで活用することによって、韓国の人たちやその他の観光客の人たちが、唐津をさらに楽しむために使えるのではないかと思います。

例えば、韓国の人が呼子のイカを食べたいと思った時、海上タクシーが定期的に唐津港と呼子を行き来すれば、韓国から唐津まで約３時間、唐津港から呼子まで約30分と、とても便利になります。そうすればさらに観光客が増えることは間違いありません。

このように船を使い、唐津港を最大限に利用することで、唐津の町も人が増え、明るくなります。今、利用者が少ないまちなかも観光客が食事をしたり、お土産を買ったりして活性化していくと思います。

世界と結ぶ唐津港へ

唐津はとても素敵な場所です。海や山など自然がたくさんあるし、菜畑（なばたけ）遺跡や旧高取邸など歴史的な建物もたくさんあります。おいしい食べ物もあるし、唐津焼などの文化工芸品もあります。そのような素晴らしい唐津をもっとたくさんの人びとに知ってもらうためにも、唐津港と世界を結んでほしいと思います。

10年後、20年後、唐津をもっともっとよりよい町にするためにも、唐津港を再び「唐への津」にし、海で唐津をつなげていくことを提案します。

唐津の姉妹都市とその未来

谷口真彩

Teens KARATSU ♣ B班

友好・姉妹都市について

唐津市には、国の内外に友好・姉妹都市があります。それは中国の揚州市と大連旅順口区、韓国の全羅南道・麗水市と済州特別自治道・西歸浦市、熊本県天草郡の苓北町です。

中国の江蘇省・揚州市は、古き文化遺産と風光美の中にも産業都市として今後一層の発展が期待される都市です。１９８２年（昭和57）に友好都市を締結しました。同じく中国の大連市旅順口区とは、ともに経済・産業各分野の交流を中心とした活動を推進してきたとして、２００４年に友好交流意向書を結びました。

韓国の麗水市は、１９８２年に市民ぐるみの交流の気運が高まり姉妹都市を締結しました。同じく韓国の西歸浦市は１９９４年、交流により友好の気運が高まり、姉妹都市の締結をしています。

唐津と海外の交流

唐津市に来ている韓国人の鄭倫昌（ジョンユンチャン）さんによると唐津市の印象はきれいで、ゴミや違法駐車、違法看板が少ないことだそうです。また九州を訪れた韓国の人に、日本観光で楽しみたいことのアンケートをとったところ、「自然景観」や「温泉」であると、とても多くの人が答えていました。

しかし「自然景観」といえば阿蘇、「温泉」といえば別府だそうで、唐津にもよい場所があるのにほとんど知られていないようです。

また唐津には国際交流協会があり、現在15団体が加入しています。麗水市に行って交流を深めたり、アジアの子どもたちにお金の援助をしたり、国際交流協会ではいろいろなことをしています。しかしお金の援助については、日本としてはたくさんのお金をだしていますが、唐津はあまりだしていないそうです。

▲ 2009 年、唐津市のヨットハーバーで開催した「市民がつくる 2009 年レーザーラジアルヨット世界選手権大会」では、ボランティアガイドが活躍する
◀ 2010 年、唐津で開催した日中韓囲碁交流大会。1999 年揚州市で始まり、その後唐津市・麗水市の３市がもちまわりで開催している

唐津もアジアの子どもたちのために、たくさんの人の力を借りて助けていかなければいけないと思います。

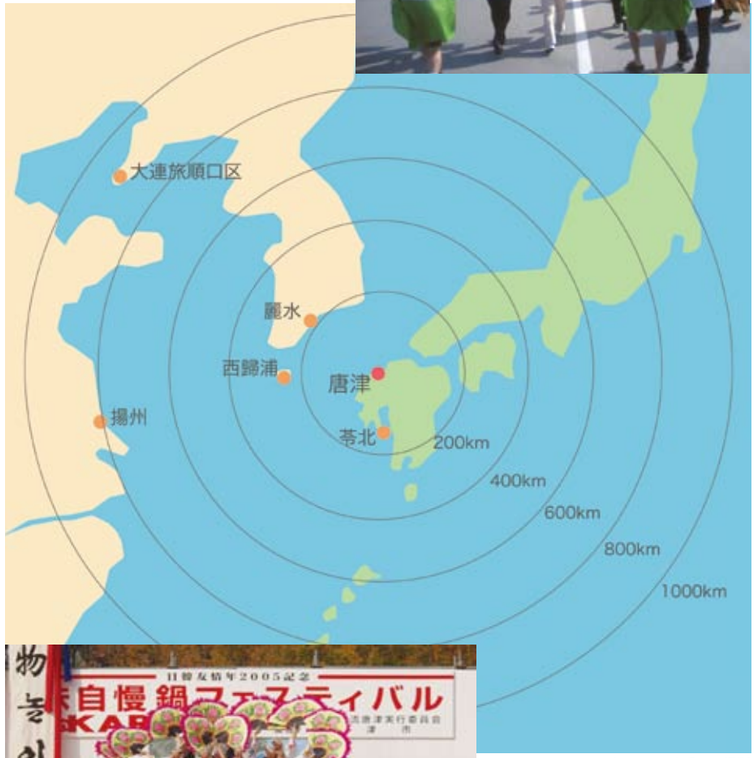
国際交流を発展のきっかけに

私はもっといろいろな国から観光客が来てくれる唐津にしたいと思います。そのために、まずは姉妹都市と協力して、もっとよい唐津をアピールしていく必要があります。今までの姉妹都市との交流の経験から、観光客がなんのために日本、そして唐津に来たいかをもう一度理解して、そこをアピールしていかなければならないと思います。

例えば、唐津では姉妹都市の人とホームステイが行われているので、来てもらった人たちに唐津のよいところなどを紹介していくのもいいと思います。また文化の違いもあるので、看板や車の標識などに中国語や韓国語を加えたりガイドしたりして、もっと外国から日本に来やすくする努力もしなければならないと思います。

友好・姉妹都市だけでなく他の国とも交流し、もっと他の国にも友好・姉妹都市を増やし、交流することによって、他の国の文化などを取り入れて日本や唐津の発展のきっかけになるとよいと思います。そして20年後はたくさんの国の人たちと交流していきたいと考えています。

2006 年に中国揚州市で行った「鑑真マラソン」に参加した唐津市民



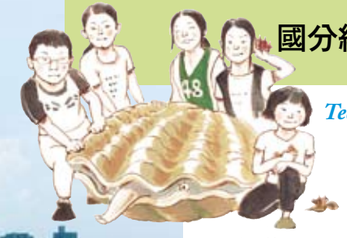
唐津市の姉妹都市の場所

2005 年、唐津で行われた日韓友情年 2005 記念イベントの「味自慢鍋フェスティバル」。麗水市の市立国楽団の人たちが民俗芸能を披露した

海の未来はあなたにかかっている!

國分紗也加

Teens KARATSU♣B班



白い砂浜を守り続けよう

西の浜は1971年（昭和46）から2002年にかけて、消波提をつくり波が砂をもっていかないようにしたので、浜が広くなりました。浜が広くなったことによって、海の近くにある家を水害から守ったり、浜を使ってスポーツができるようになりました。

でも20年後も浜の面積が増え続けるとは限りません。今、地球温暖化によって海面上昇が進んでいます。そのため海の水が奥まできて、再び浜が少なくなっているのです。このまま温暖化が止められないと浜がなくなって、家や虹の松原に被害がでる恐れがあります。そうならないために二酸化炭素を減らす取り組みが必要だと思います。

例えば、海岸線の空き地に森をつくるなどできないかなと思っています。なぜ森をつくるかと言うと、ひとつは二酸化炭素を樹木が取り入れて、私たちが吸っている酸素に変えてくれるからです。また、森をつくることによって気温上昇を抑えることもできます。

私が暑い時期に祖母の家に行った時のことです。祖母の家は山の近くで私の家より涼しく、クーラーなんか使わなくても大丈夫でした。この体験から、森の近くは涼しくて電気をあまり使わなくていいと思ったのです。今から実行していっても1、2年では無理だけど、20年後なら絶対可能なことだと思っています。

現在の西の浜

上空から撮影した第２次世界大戦頃の西の浜（左）と現在の西の浜（右）。現在の方が砂浜の面積が広い

ヨットハーバーで「鳥島を語ろう会」の人に、西の浜のゴミについて、説明を聞く

1955年（昭和30）頃の西の浜は、海水浴場としてにぎわった

昔のきれいな海に戻そう

もし20年後に浜が残ったとしても、利用者が使い方を間違えればゴミが捨てられ、景観を損ねたりすると思います。今でもゴミを捨てる人が多くて、ボランティアの人に拾ってもらっているという状況です。もしこのまま20年たってしまったら、拾う人がいなくなって、捨てるばかりになるのではないかと思っています。改善するにも人の心がけ次第で、海はきれいにも汚くもなります。

浜にあるゴミを含めて、今の西の浜は私的にはきれいではないと思います。昔は鳥島までの遠泳大会などのイベントが行われていたので、西の浜はきれいだったと思うのですが、今は外国から流れてきたゴミや打ち上げられてしまったゴミがたくさんあります。外国からのゴミは注射器や薬物のビンのような危険物もあります。

でもちょっと前までは、海が今よりもっと汚かったそうで、家庭排水が流されていたにもかかわらず、消波提があるために淀んだ水が海に溜まった状態になっていました。

今は家庭からでる排水をそのまま流さないように、1回水をきれいにしてから海に戻すようにしています。そのおかげで、少しずつ水質が改善されているそうです。このまま技術が進んで可動式の消波提にできれば、水の流れが回復して、昔のようなきれいな海に戻ると思います。

生態系を安全な頃に戻そう

地球温暖化で海の生き物の生態が変わってきています。今はヒョウモンダコという猛毒をもっているタコが、本来いるはずのない唐津にまできています。このまま温暖化が進めば、毒をもつ生き物が増えて、危なくて海に入れなくなってしまうかもしれません。そうならないために、生き物たちが棲みやすい環境を未来の技術でつくってあげることがいいと思います。

今、唐津の海は安全に遊べないところになっています。安全な海をとり戻すために、一人ひとりができることを考えましょう。

実際に浜に落ちていたゴミ。電話の受話器や水筒、花火の燃えかすなどなど…

火力発電所を緑のシンボルに

佐藤史菜

Teens KARATSU ♣ B班

現在休止中の発電所

唐津火力発電所は、唐津の海に面しているとても大きな発電所です。現在、この地域の電気は玄海原子力発電所の電気でほとんどまかなえているので、運転をしばらく休止しています。そこで私は、20年後の唐津火力発電所を、自然と人でにぎわう場所にしたいと思いました。

火力発電所は石炭、石油、またはLNG（液化天然ガス）といった燃料を燃やして、高温・高圧の蒸気を発生させます。そのボイラーでできた蒸気を、タービンという発電機の羽根車（プロペラのようなもの）を1分間に3600回、高速で回転させて電気をつくりだしています。

このように火力発電所というのは、燃料を大量に燃やして電気をつくります。したがって、たくさんの二酸化炭素を排出するという問題があります。また燃料となる石油や石炭は、天然の資源なので限りがあります。だから、もしかすると20年後か30年後にはそういった資源がなくなってしまう恐れがあります。そのため火力とは違うエネルギー源が求められるようになってきています。

その一方で、ここ最近電気の使用量が増加しつつあります。電気の使用量がこのまま増えていってしまうと、玄海原子力発電所でつくる電気だけでは足りなくなってしまうかもしれません。そのために唐津火力発電所は運転休止の状態になっているのです。

海辺に建つ火力発電所

遠くからでも目立つ２本の煙突

唐津火力発電所の全景

電気をつくるタービン

いろいろな機械の置いてある火力発電所の内部

産業遺産として残す

私はこれから20年もしたら、火力発電所は運転しなくてもよくなっていると思います。その時は唐津火力発電所を産業遺産として残したいです。そして、自分たちの生活について、もう一度見つめなおす場所になるとステキだなと思いました。

そのために、まず発電所の機械などを多くの人に見てもらいたいと思います。例えば、高さ180メートルある煙突を灯台のように活用できないかと考えました。そうすれば、唐津のシンボルマークとして観光地にすることもできます。またイギリスでは運転を停止した「バンクサイド発電所」という火力発電所を、建物の形はそのまま残して、中を展示室やレストランとして利用している「テートモダン」という美術館があります。唐津火力発電所もこのように、発電機やタンクなどの展示スペースやレストランをつくり、人が集まる施設にしたら、この場所をうまく活かすことができて、さらに発展することができます。

燃料を蓄える巨大なタンク

発展と自然が共存する町

また、この場所が自然や海と共存しているところになっているとよいなと思いました。実現するのは難しいと思いますが、もし実現できたらきっと唐津の町は今よりさらに、もっとにぎわいます。

そして、そんな町になるために、二酸化炭素の排出や地球温暖化を止められるように、ふだんから唐津の人みんなが気をつけて行動するようにしましょう。そうすれば、環境を守りながら、にぎわいのあるまちが絶対に実現すると思います。

佐志親水コミュニティーゾーン

甲斐千裕

Teens KARATSU♣B班

地元の人たちが必要な施設は？

唐津市佐志にある埋立地は、長い間どうやって土地を利用していくかということを、市が地元の人たちと考えてきた場所です。地元の人たちは病院や商業施設、老人ホームをつくってほしいということです。私は病院と商業施設には賛成です。

というのも佐志には病院が近いところにありません。夜に具合が悪くなった時にバスはなく、電車では、駅に降りてから病院まで歩かなければなりません。目が悪くて車の運転ができない場合は、救急車を呼ばなければなりません。このようなことが、近頃増えてきているのです。

商業施設の場合も、病院と同じで近くにないため、買い物に行くには車でなくてはならず、特にタクシーを利用する人が多いということでした。先ほども書きましたが、バスも電車も歩いたりしなければなりません。これは足が悪い人にとってはとてもきついことだと思います。

それにタクシーを利用するのは、往復にかなりお金がかかってしまいます。毎日通っていたらすごい金額になってしまうので、そのため今は週に1回行く時に、1週間分を買い溜めするしかないようです。だから私もこの埋立地に小さくてもよいから、商業施設をつくったほうがいいと思います。

上空から見た埋め立て後の佐志浜

佐志浜を埋め立てた理由

そもそもこの土地は、大部分が唐津港の船の航路や停泊地をしっかりつくるために取り除かれた土によってできた埋立地です。その土地の利用法として、佐志の地域に国道204号バイパスを建設するにあたって、移転しなければならない人のための、代わりの土地にすることが考えられました。

佐志浜の埋め立てについて、はじめは町内会の役員や漁業者に説明がありました。地元に住んでいる人からは反対意見も多かったようですが、地元の人たちには埋め立てが始まる少し前に図面が見せられ説明があり、工事が始まりました。ところが、工事をしている途中に、西の浜の砂が流失しているということで、佐志の埋め立てよりも、西の浜の砂の流失を防ぐ工事が優先され、事業費用が十分に用意できない時期がありました。そのこともあって埋め立て工事は、完成が遅れてしまいました。こうした事情で、国道204号用地から移転する予定だった人たちは、埋立地に移らずに他の場所に行きました。

埋め立て前、昭和初期頃と思われる佐志浜（佐志中学校所蔵）

埋立地が完成した時には、どういう風に使うか最初から考え直さなくてはなりませんでした。そしてみんなで話し合って、今の計画があるわけです。

埋立地に水族館を！

私は佐志の人に話を聞く前には、唐津の観光客が減っているということだったので、佐賀県の中でも唐津にしかないようなものをつくればよいのではないかと思っていました。例えば、水族館をつくったとすれば、佐賀県には水族館、動物園などはないので、見に来る人はたくさんいると思います。ですが今回、地元の人の話を聞いて、20年後には地元の人の意見を尊重した土地の利用ができていたらよいな、とも思いました。

埋立地はかなり広いので全体をふたつに分けて、一方に病院と商業施設、もう一方に水族館等をつくることもできると思います。

現在の埋立地の利用計画図

埋立地の現在の様子。右の写真は海との境界にある護岸

虹の松原

Teens KARATSU ♦ C班

虹の松原は、幅約1キロ、延長約5キロ（現在）という日本最大規模の松原です。また日本以外にこのような松原はありませんので、実は世界で最も大きく貴重な自然です。この虹の松原は、約400年前に唐津藩初代藩主・寺沢志摩守広高が植林を命じて、20年間を費やして人間の手によってつくられたものです。その後長い間市民生活の一部として利用され、人間と共生しながら保全されてきましたが、高度経済成長期である1955年頃から、落ちた松葉の利用をしなくなって松葉が放置堆積し、次第に松林の生態系が崩れてきました。さらに、松くい虫や外来の樹木が入ってきて、このまま放置しておくと、あと数年で虹の松原は消失してしまいます。

唐津市都市計画マスタープランでは、この「虹の松原の保全再生」を大きな課題として取り上げています。これを受けて、中高校生は具体的に「白砂青松」を取り戻す市民の活動や市民の声を取材して、自分たちのアイディアを提案しました。「白砂青松」は、私たち日本人の原風景です。

取材で出会った人びと B班

宮崎常義さん(左)、**野崎敏昭さん**(右)
●佐志浜町駐在員、桜町駐在員
宮崎さんは、唐津みなとまちづくり懇話会の佐志親水コミュニティーゾーン部会長をしている人です。２人とも佐志の未来を真剣に考えていて、とても詳しく教えてもらいました。

川上直実さん
●前唐津海上保安部　部長・唐津港長
海難事故や不法入国者など、海の安全を守る仕事をしている海上保安庁の人たちは、日焼けしてキリッとしていました。

九鬼章人さん(故人)
●元唐津里浜づくり推進協議会会長
清掃活動等の話から西の浜を大切にする思いが伝わってきました。

江口義博さん(左)、**桑本巧さん**(右)
●九州電力唐津火力発電所／技術グループ
火力発電所の仕組みがとてもよくわかりました。

鄭倫昌(ジョンユンチャン)**さん**
●韓国西歸浦市からの交流職員
明るくて楽しい人でした。（韓国語が話せたらもっと聞けたかも。）

米田康秀さん
●鳥島を語ろう会
鳥島と、唐津の海への愛情がとってもある方でした。

井上常憲さん
●唐津市国際交流協会・市議会議員
国際交流協会の取り組みについて教えてもらいました。

未来に残したい唐津の風景 ③

海岸線に沿って東西に延びる壮大な虹の松原。
生き物と人間が共生していくための唐津の原点だ。
たくさんの恵みをもたらしてくれる虹の松原が、
元気で長生きできるかどうかは私たちにかかっている。

防備林として植林された虹の松原

草場勇太

Teens KARATSU ♦ C班

何のためにつくられたのか

17世紀の初め頃、唐津藩の殿様であった寺沢志摩守広高が、砂や塩害、北西からの強い季節風などから農作物を守るために植林を始めました。幅400～600メートル、長さ約8キロの防備林、虹の松原が完成しました。

しかし、現在は新しい説もあります。それは、虹の松原の中には福岡まで続いていた街道がありました。松原はその街道を、潮や砂から守るためにつくられたのではないか、という説です。それは、他の県でも街道に沿って松が植えられていることで、有力な説と考えられます。どちらを信じるかは、あなた次第です。

寺沢広高の人物像

寺沢広高（1563～1633）は、肥前国唐津藩初代藩主です。織田信長、豊臣秀吉に仕えていた戦国武将で、江戸時代初期の大名でもあります。また彼は、自分のことを「正成」、「定政」とも名乗ったそうです。

海岸線に沿って湾曲した虹の松原

広高は新田開発を行う際、防備林として、虹の松原を造成し、手厚く保護しました。

「この中に、自分が愛してやまない松が7本だけある」と言ったそうですが、どの松とは指定していません。これは住民に「もし自分が粗末にした松がその7本のどれかだったら」と思わせることによって、すべての松を大事にせざるを得ないように、心理的に圧力をかけたものと言われています。

唐津藩の庇護のもと、伐採をしたら死罪になるのはもちろんのこと、燃料としての落ち葉の採取にも厳しい制限を課していました。また、藩主の身分が剥奪されたり、別の領地に移ったりして、藩主の家が代わっても手厚く管理されてきました。現在は、国の佐賀森林管理署が管理を行っています。ほぼ全域保安林に指定されていて、現在でも伐採は制限を受けています。

虹の松原は、一揆の舞台にもなりました。それは、1771年、当時天領となっていたことから、農民が重い年貢を軽減させるために行った「松原寄り（虹の松原一揆）」です。この一揆は、たくさんあった一揆の中でも最初に成功した一揆になりました。

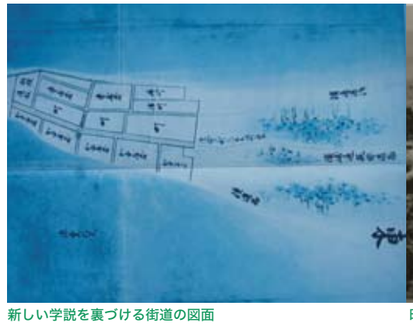
虹の松原の名前の由来

「虹の松原」の名前の由来は、今回取材を行った結果、2つの有力な説が出てきました。

まず一つ目の説は、「二里の松原」がなまって「虹の松原」になったという説です。「二里」とは、昔の8キロ（一里が4キロ）という意味で、松原が8キロあったので「二里の松原」と呼ばれていたそうです。

二つ目の説は、鏡山から松原を見下ろしたらまるで虹のようだったからという説です。風景写真のように、海岸に沿って湾曲していて、これを見たちょっとシャレた人が「虹のようだ」と言い、これが人びとに伝わったという説です。

僕は、虹の松原の取材をして、初めて知ったことがたくさんありました。最初は、松原をつくったのが誰かも知らなかったけれど、取材をしてよく理解することができました。きついと思うこともあったけど、今では、取材をすることで、さまざまな体験ができたので、よかったと思っています。



新しい学説を裏づける街道の図面

昭和初期頃の鏡山から見た虹の松原

松林を散策しながら、かつての松原を思う

虹の松原「七不思議」

森本佳樹

Teens KARATSU ♦ C班

七不思議とは

日本三大松原のひとつ、虹の松原にはさまざまな言い伝えがありますが、その一つが虹の松原「七不思議」です。そこで、以下に紹介します。

一　1年中セミの声を聞かない。

年代はあわないが伝説によれば、豊臣秀吉が名護屋へ向かう途中、この松原を通った際にあまりセミが鳴くので「騒々しい」と叱って以来、セミの声が絶えたという。

二　「にらみの松」がある。

豊臣秀吉が松原を通っている時、松が高く邪魔で眺望ができなかったので、「低くなれ」とグッとひとにらみして以来、高くならない松の一群ができた。

三　「根上りの松」が並んでいる。

松原の南側、松浦川河口に近く千人塚の砂丘に、10本程根っこが盛り上がった松が並んでいる。

四　「槍掛けの松」がある。

松原の中央に近いところの「松原おこし」を売る新茶屋という茶店の横に、太さ、枝振りなど、双子のようによく似た2本の松があり、槍を掛けるのにちょうどいい松がある。

五　黒松のみで、赤松が一本もない。

さすがに経世の才に秀でた寺沢広高は、松を植える時、潮風に強く、水分の少ないところで育つ黒松のみを植林した。肥料の不要な黒松を、海岸の砂丘に大量に植えたのである。

六　二軒茶屋の井戸は真水が湧き出す。

松原の中にある二軒茶屋の井戸は、海岸近くであるにもかかわらず、塩分

▶「七不思議」の看板
◀茶屋の井戸水は真水

虹の松原マップ

を含まない真水を湧出する。

七　「従是東対州領（これよりひがしたいしゅうりょう）」の石柱が立っている。

高島の右端と神集島（かしわじま）の左端を結ぶ延長線上に、松原の中心がある。この地点に現在でも「従是東対州領」と記された石の標柱が立ててある。偶然なのか人為的なのかは不明。ここは対馬藩との国境でもあった。

八　松原に蛇はいない。

浜崎にある諏訪神社に祀られている諏訪姫の願いにより、昔から松原に蛇はいないと言われている。

七不思議は以上の八つですが、「七不思議なのに八つ不思議がある」というのもひとつの不思議です。

槍掛けの松

根上りの松

七不思議の真実

次に七不思議の真実、つまり科学的に解明されたことを書きだしてみます。

一　1年中セミの声を聞かない。

虹の松原で生息しているのは、ほとんどがハルゼミとニイニイゼミのため、夏にはあまり声が聞こえません。

二「にらみの松」がある。

唐津地方特有の強風が吹くため、松の幹が海岸と反対の山方向に倒れたままの状態で大きくなります。

三　「根上りの松」が並んでいる。

松浦川の氾濫により砂が洗われ、根がむき出しになっています。

四　「槍掛けの松」がある。

長い年月の間に台風や大雪などで幹が傾いたり、倒れたりして変形したと思われます。

五　黒松のみで、赤松が一本もない。

現在は赤松も多く見られますが、海岸の痩せた砂地や潮風に強い黒松が植えられました。

六　二軒茶屋の井戸は真水が湧き出す。

松原の砂浜の下は花崗岩ですが、風化しやすいため、松原の横を流れている北牟田川の川水が花崗岩にしみこみ、花崗岩層の下で伏流水となっているので、真水が湧出します。

七　「従是東対州領」の石柱が立っている。

現在の松原は長さも短くなり、確かめることは不可能となりました。

八　松原に蛇はいない。

附近の家や松原の中で、蛇を見ることがあります。

新・虹の松原の七不思議

私は20年先を見通して、新しい松原の七不思議を八つ考えてみました。

一　夏になると松露が採れなくなる。

二　松原の中にはハート型の松があり、触ると幸せになる。

三　松原のとある地点で方位磁石を見ると、目にもとまらぬ速度で回る。

四　どこかにＵＦＯが落ちた跡がある。

五　大老の松はまだ元気。

六　松葉は燃えやすいのに火事にならない。

七　生後1カ月の豚は松露探しの才能がある。

八　松葉かきをすると長生きする。

さて、皆さんはこの七不思議の理由がわかりますか。

虹の松原の危機

橋本大志

Teens KARATSU ♦ C班

不必要になった松葉かき

今、虹の松原にはさまざまな危機があります。その第1は松葉の堆積です。かつては、落ちた松葉は大変燃えやすいことから、住民が落ち葉をかき集めて、毎日の生活の中で煮炊き用の引火材として利用していました。

松葉おこしを作っている脇山商店の脇山忠さんによると、町内で松林の区域を分担して、1年に1回松葉かきをしていたそうです。1日の作業でかき集めた松葉を足で要領よく束ね、およそドラム缶くらいの大きさにして、リヤカーで自宅まで運ぶと、半年分の火種になったそうです。また、松葉かきによって育った松露を春や秋に採りに来て、持って帰って食べたり、売っておこづかいにしたそうです。しかし、1955年頃からの燃料革命によって松葉が利用されなくなり堆積し始めました。堆積することにより松葉が腐葉土化して栄養のある土になってしまいます。また、松葉の堆積によって、松の生長に必要な松露が出てこなくなってしまいました。

松葉かきをした後の「白砂青松」

かつては地区ごとに松葉かきをしていた

松くい虫の被害にあった「大老の松」。(2009年冬)

広葉樹の繁茂と松くい虫

第2に、雑草や広葉樹が生えることで腐葉土化されて土が栄養をもち、松が好む栄養のない砂地、乾燥して水はけのよい砂地、光の当たる砂地が、光を遮られて湿気を含んだ砂地になったことから、松が元気に育たなくなりました。

第3に松くい虫です。松くい虫とは、外来種のマダラカミキリに寄生する寄生虫のことです。その寄生虫はマダラカミキリが幹を噛み、そのキズから寄生虫が松の中に入って水の通る管を止めてしまい、枯らしてしまうのです。その影響で、幹周が約4メートル、樹高が約20メートルもある虹の松原の中でも長寿の1本である、樹齢400年の「大老の松」が松くい虫の被害で伐り倒されました。

危機を回避するために

虹の松原を「白砂青松」に戻すために、9年前から、松原を守ろうとする人たち、30団体、7個人によって松葉かきや除草を行い、松が元気に育つ栄養の少ない砂地にしています。それと松葉かきをすることで、松の生長に必要な松露が出てきて、松が元気に育つようにしています。

広葉樹は、光を好む松に光を遮蔽して松の生長を阻害します。そこで国は広葉樹の伐り倒しを実施して、虹の松原を黒松だけの単層林にしようとしています。

また国では周囲の松への感染を防ぐために、薬剤空中散布、松くい虫の被害にあっている松には、地上散布、薬剤注入などを実施しています。

虹の松原の将来

松葉かき、除草、松くい虫防除伐採事業などの対策を行わなければ、松が少しずつ消えていきます。そして松が元気に育たない環境になって、虹の松原はわずか3年で消えてしまうだろうと言われています。しかし、私は今行っている対策だけでは、20年後に「白砂青松」は再生しないと思います。唐津の市民がもっと日常的に虹の松原とつきあわないと無理だと思います。

松葉おこしを作っている麻生商店の麻生節子さんは子どもの頃、松林で遊んだり、読書をしたり、松の枝にハンモックを掛けて昼寝をしたそうです。もちろん松葉かきは子どもにとっても、重要な作業だったようです。麻生さんは、今後研究が進み、松葉が漢方薬になったり、ガンの治療薬になったらと願っています。またみんなが松葉かきをするようになるので、「みんな頑張ってよ」と言っていました。とても印象に残る提案でした。

少女時代の麻生節子さんは、裸足で白砂を駆け回った

広葉樹が繁茂してきた

根元に堆積した松葉と生い茂った雑草

世界の MATSUBARA

小野尾優士

Teens KARATSU ♦ C班

▲二軒茶屋付近を走る自動車（撮影／大正末）
◀東の浜に1932年に建てられた市営シーサイド・ホテル。老朽化のため1963年姿を消す

▼海濱院の庭で行われた日米合同のお茶の会（撮影／1937年）

戦前は「国際避暑地」

戦前の虹の松原はどのように使われていたのでしょうか。1935年（昭和10）2月1日付けの『大阪毎日新聞』の記事を引用してみます。

「避暑外国人誘致に、虹の松原にホテル街の出現。鏡山頂や大島にも計画。今夏の盛観を期待！　昨夏、6、7、8、9の4カ月に300余名、延べ人員9000余名の滞在を見、国際避暑地としてメキメキ売出し、避暑客景気を謳歌した唐津市では、今夏さらに外人を誘致しようと、観光課では今から宣伝法に頭をしぼっているが、これと呼応して外人ホテル建設熱が勃然と起こって来た」

さらに1980年の『西日本新聞』から引用してみます。

「当時のホテルは、東側から海濱院、松原ホテル、東屋ホテル、松屋ホテル、シーサイドホテルの5軒があり、いずれも地元の経営であった。建物はいずれも木造かわら葺き3階建て、一部2階建てもあった。外観は学校の校舎を思わせる日本建築だが、玄関や部屋の入り口がドア式。部屋は日本間と洋間だが、すべてベッド。食堂は別にあり、テーブル式。トイレは簡易水洗で、その処理は砂にしみ込ませる地下浸透式。食事も牛乳、肉の他、洋酒も用意されていた。収容力はいずれも50人前後だったが、海濱院だけは別に一戸建てのロッジも5棟あるなど約100人が宿泊できる最大のホテルだった」

上海経由でやってきた外国人

ホテルに隣接して歯科医院もあった海濱院第一本館（撮影／昭和初期）

海濱院に宿泊した西欧人客。写真左から5番目は唐津をこよなく愛した貿易商モーラー（撮影／1935年）

これらのホテルは、外国人、主に上海からの西欧人などが避暑地として利用しに来ていました。外国人は家族連れで上海から長崎を経由して、汽車で来ていたようです。滞在期間はおよそ1カ月程度で1935年には年間716人（延べ滞在日数1万9299日）という多くの人が来ていました。素潜り世界一のジャック・マイヨールも幼少の頃に来ていたそうです。

虹の松原になぜ外国人が多く来ていたかというと、当時佐賀県内でも有数の事業家だった鏡出身の村崎広輔さんが上海で生活している時に、外国人が雲仙や別府に長期旅行していたのに目をつけて虹の松原をPR、数人を連れてきたのがきっかけでした。

浜辺にカラフルな水着を着た外国人がかっ歩し、唐津の町は浴衣に下駄ばきの外国人が散歩する風景が見られたようです。商店の店員さんも英会話のにわか勉強をしていたという話もあります。

外国人観光客でにぎわっていた虹の松原も、太平洋戦争を契機に外国人観光客はぱったり途絶えました。そして戦後は、松原にあったホテルはアメリカにより接収され、米軍保養施設として利用されるようになりました。こうして「国際避暑地」としての唐津はあっけなく終了しました。

虹の松原を世界遺産に！

唐津シーサイドホテルの高倉秀吉支配人によると、松原をウォーキングやサイクリングする観光客が多いそうです。そうした観光客は幸いにもリピート客が多いので減ることは少ないようですが、やはり一番はリピート客を増やし、虹の松原を目的に、海外からの観光客が来てくれるようになることが目標だと思います。

松原の保全活動を市民がもっと積極的に取り組み、日本一の美しい「白砂青松」をもう一度実現すれば、虹の松原は世界遺産になり、再び外国人も訪れてくれると思います。そうすれば、今ではほとんど採れなくなった松露も戦前のように再び採れるようになり、ホテルの食事や店頭にも出せるようになるでしょう。

僕は永遠に白砂青松の虹の松原が唐津市に残り、世界のMATSUBARAになってほしいと思います。